

2026年(令和八年)

1月23日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>**■ 概況**

当週(1月15日～21日)の国際石油市場は、イラン・米国間の緊張が一服したものの、グリーンランドの米国による領有をめぐる応酬は続き、加えて、アゼルバイジャンからの石油供給不安が伝えられ、やや強含みで推移した。

NYのWTI原油先物市場は、15日に6営業日ぶり反落の59.19ドルで始まったが、その後は、3営業日続伸、21日は、60.62ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)も、前週(1月8日～1月14日)は58.30～62.70ドルの範囲で推移したが、当週は、1月15日62.90ドル、16日62.20ドル、19日62.60ドル、20日62.50ドル、21日62.80ドルだった。

対ドル為替レート(USD)は、前週(1月8日～14日)156.85～159.26円の範囲で推移したが、当週は、1月15日158.58円、16日158.77円、19日157.55円、20日158.19円、21日158.25円だった。

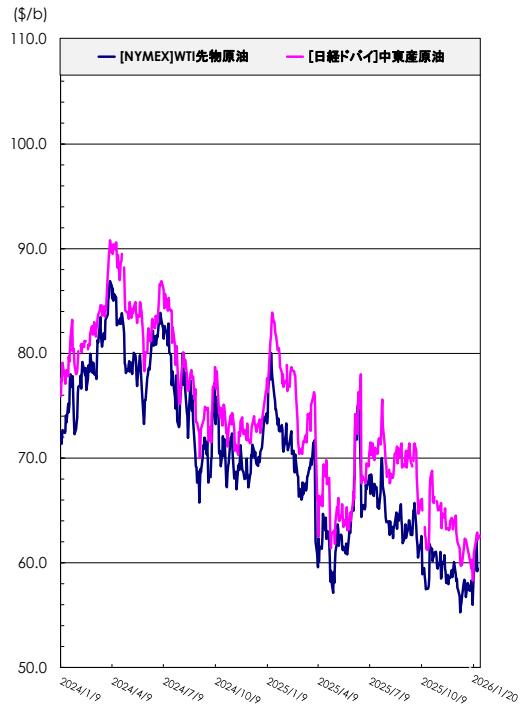
財務省が1月22日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格は68,179円/KLで前

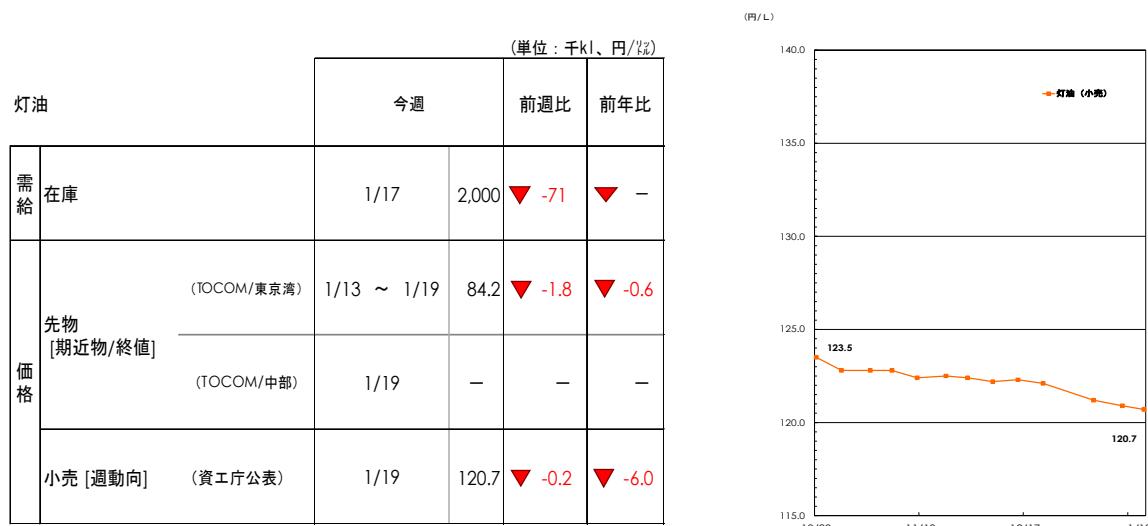
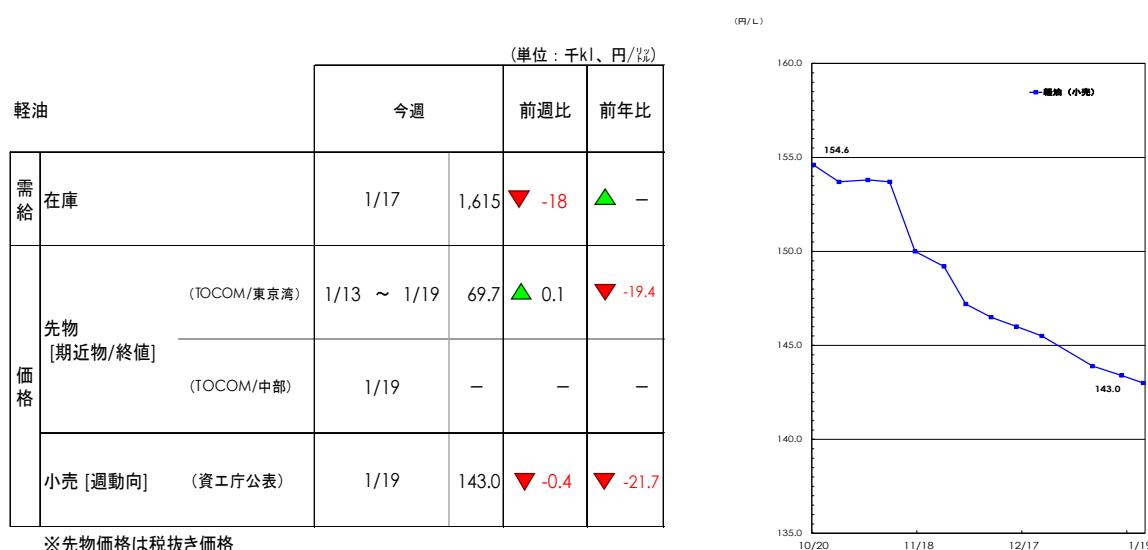
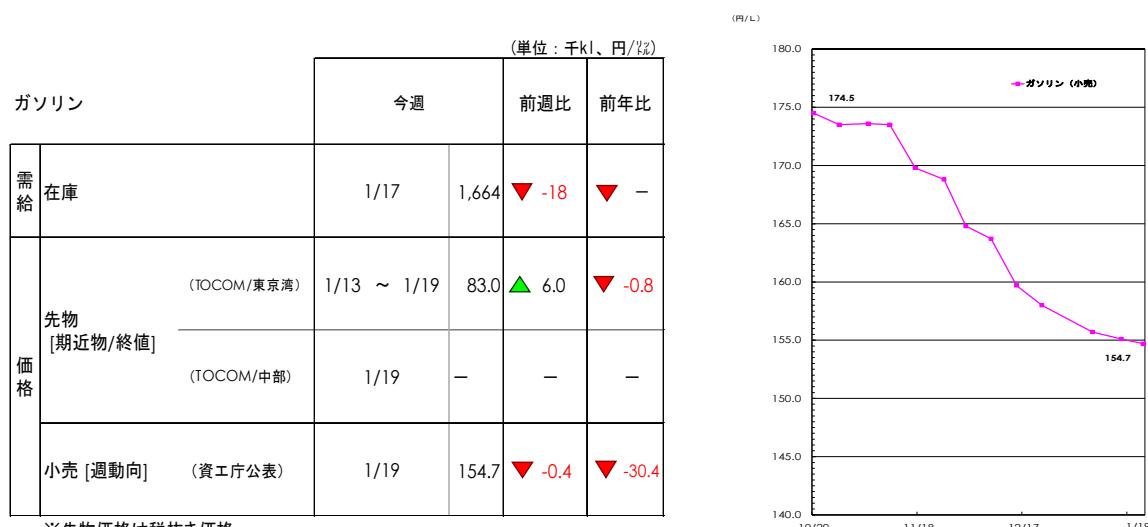
旬比328円/KL高、ドル建てでは69.62ドル/Bで前旬比0.36ドル/B高、為替レートは1ドル/155.71円。また、12月月間の原油輸入平均CIF価格は68,134円/KLで前旬比464円/KL安、ドル建てでは69.48ドル/Bで前旬比1.73ドル/B安、為替レートは1ドル/155.89円。

そのような中で、1月19日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.4円安、軽油も同0.4円安、灯油は同3円安(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は154.7円だった。

ガソリンの補助金は、12月31日、旧暫定税率の廃止と同時に廃止された。引き続き、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の補助金が支給されている。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	1/11～1/17	3,033	▼ -93	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	87.6	▼ -2.7	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	1/17	9,523	▼ -463	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	1/20	62.60	▲ 0.40	▼ -20.4
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/19	60.34	▲ 0.84	▼ -15.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月下旬	69.62	▲ 0.36	▼ -6.95
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	68,179	▲ 328	▼ -5,248
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	155.71	▲ 0.05	▼ -3.25
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/20	158.55	▲ 0.73	▼ -1.47





## ■ 関連情報

### 1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(1月8日～14日)のNYMEX・WTI先物市場は、58.68～62.02ドルの範囲で推移した。

当週1月15日は、前日のトランプ大統領のイランにおける殺戮は止まりつつあるとの発言を受けて、イランをめぐる緊張は緩和、さらに14日発表のOPEC月報は、2026年の需給はほぼ均衡するとの予想を示し、6営業日ぶりに反落した。2月物終値は2.83ドル安の59.19ドル。

週末16日は、イラン情勢の緊張が続く中、空母打撃群がアジアから中東に向かったとの報道があり、さらに、週末3連休を前にポジション調整の買いもあり、わずかながら、反発した。2月物終値は前営業日比0.25ドル高の59.44ドル。

19日は、キング牧師記念日の休日につき休場。

連休明け20日は、トランプ大統領が、グリーンランド領有をめぐり、デンマーク支援国8か国からの輸入品への追加関税の賦課を発表、米欧間で緊張の高まる中、アゼルバイジャンの電力施設故障で、ティンギース油田からの原油出荷に障害が出ているとの報道があり、続伸した。直近の2月物終値は0.90ドル高の60.34ドル。

21日は、引き続き、アゼルバイジャンからの供給不安が続く中、米国内の厳冬による需要増加も見込まれ、3営業日続

伸した。また、この日、スイス・ダボスで開催中の世界経済フォーラム(WEF)で、トランプ大統領は演説し、就任1年間の経済好調を自賛する一方、フィンランドに対する軍事介入は否定、これを好感して、米国株式は上昇、先物市場もリスク姿勢が高まった。この日から取引の中心限月に繰り上がった3月物終値は0.26ドル高の60.62ドル。

### 2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)が発表する、1月16日現在の米国在庫週報は、3連休のため一日遅れの22日発表の予定。

また、EIAによると、1月19日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.7セント高の1ガロン2.806ドル(117.4円/㍑)と9週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格も、前週セント比7.1セント高の3.530ドル(147.7円/㍑)と9週ぶりの値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月16日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の410基であった。

### 3 国内/原油処理量

石連週報によれば、1月11日～1月17日に休止したトッパー能力は7.2万バレル/日で、前週に対して3.7万バレル/日増加した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は303.3万㎘と、前週に比べ9.3万㎘減少。前年に対しては20.1万㎘の増加。トッパー稼働率は87.6%と前週に対して2.7ポイントの減少、前年に対しては5.8ポイントの増加となった。

## 4 国内/製品在庫量

1月17日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油、C重油は取り崩し、A重油は積み増しとなった。

ガソリンは166.4万kl、前週から1.8万kl減少し、対前年では11.1万kl減。

灯油は200.0万kl、前週から7.1万kl減少、対前年では10.6万kl減。

軽油は161.5万kl、前週から1.8万kl減少、対前年では1.5万kl増。

A重油は80.9万kl、前週から1.4万kl増加、対前年では5.2万kl増。

C重油は174.3万kl、前週から5.5万kl減少、対前年では4.8万kl増。

	今週 (1/17)	前週 (1/10)	前週比
ガソリン	1,664	1,682	▼ -18 (-1%)
ジェット燃料	736	746	▼ -10 (-1%)
灯油	2,000	2,071	▼ -71 (-3%)
軽油	1,615	1,633	▼ -18 (-1%)
A重油	809	796	▲ 13 (2%)
C重油	1,743	1,798	▼ -55 (-3%)
合 計	8,567	8,726	▼ -159 (-1.8%)

## 5 国内/元売会社製品卸価格

1月13日～19日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安で1月22日からの元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。

揮発油の補助金は、12月31日、旧暫定税率(現：当分の間税率)と同時に廃止となったが、他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円、ジェット燃料が4円で据え置きだった。

## 6 国内/製品小売価格

1月19日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円安い154.7円、軽油も同0.4円安い143.0円、灯油は18%ベースで同3円安い2,173円(1%ベースでは同0.2円安い120.7円)。ガソリンは10週連続の値下がり、軽油も10週連続の値下がり、灯油も4週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは3都県、横ばいは4県、値下がりが40道府県だった。全国最安値は愛知県の147.2円、その次は宮城県の147.8円であった。他方、最高値は鹿児島県の165.6円。最も値上がりしたのは東京都と福井県(前週比0.3円高)、最も値下がりしたのは茨城県(同1.9円安)だった。

次回調査時(1/26)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資源公表) [週動向]	今週 (1/19)	前週 (1/13)	前週比	直近高値
レギュラー	154.7	155.1	▼ -0.4	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	120.7	120.9	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	143.0	143.4	▼ -0.4	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。

次回（2025第42号）の公表は、1/30（金）14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、「ドキュメント」といいます）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、「当センター」）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

#### ②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange: NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。